

令和2年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立津幡高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
1 基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）	① 挨拶運動に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート（保護者）90%	昨年同時期の数値より7%下がった。長期の臨時休業期間により、生徒へ意識付ける機会があまり持てなかったことが影響している。今後、様々な機会を捉え啓蒙・指導していきたい。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	C 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）83%	昨年同時期の数値より13%下がった。4月の「制服着なしセミナー」の中止や臨時休業中に頭髪服装検査がなかったことにより、生徒へ意識付ける機会が持てなかったことが影響している。後期には服装容疑を整える大切さを指導していきたい。
	③ 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数が過去5年間の平均と比べて減少率が A 15%以上である。 B 10%以上である。 C 5%以上である。 D 5%未満である。	D 6・7月の過去5年間の平均値より23%（36件）の増加	6月・7月の遅刻件数を昨年度と比較した結果、36件の増加となった。遅刻数の推移をみると、直近の2年間では不登校傾向の入学者数の増加が遅刻数につながっている。さらに臨時休業中に直接、注意・指導することができなかったことも影響していると思われる。
	④ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	環境美化委員による清掃点検（クリーンウィーク）で平均清掃達成率が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	A 7月の環境美化委員の評価では96%（評価者の変更：昨年度は担当職員による点検評価97.6%）	環境美化委員による清掃点検では、達成率は95%以上と高水準であるが、クラスによって掃除の取り組み方についてややばらつきがある。引き続きクリーンウィークや教職員による清掃点検などを定期的に行い、校内美化意識の維持・向上を図っていきたい。
	⑤ 生徒の良好な人間関係づくりを支援し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が A 90%である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）73%	臨時休業の影響か、コロナ禍に対する心配や友人との人間関係に不安を感じている生徒が多いように見受けられる。QU検査の結果を参考に、生徒への声かけや面談等を行い生徒が不安なく生活できるように働きかけていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		- 遅刻数が増えていることは、憂慮すべきと思う。コロナ禍の状況に一部で甘えが生じている懸念があるのではないかな。 - 中間評価の根拠となっているデータは、あくまで学校再開後の2か月程度のものなので冷静な分析が必要である。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		- クラス減や定員割れの状況があるので、遅刻数等のデータ分析には実数のみならず割合（%）も用いて分析と対応を実施する。 - コロナ感染の状況を考慮しつつ、今後は学年集会等を実施し生活指導面での強化・充実を図っていく。		

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
2 授業の工夫・改善と生徒の進路の実現。（わかる授業の実践、公開授業への参加、体力の増進、生徒の進路意識の向上）	① 教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、わかりやすい授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	A 7月の生徒による授業評価では96%	iPad等のICT機器の活用度が年々高まってきており、生徒の学習に向かう意識も高くなってきている。 今年度はzoom、google classroomの導入もあり、授業の補完のみならず第2波、3波に備え、在宅・別室でも授業を受けられる体制を強化していきたい。
	② 教員間で授業見学を行い、授業力向上を図る。	各学期に1回以上授業見学を行った教員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート（教職員）85%	コロナ禍の影響により6月授業スタート、7月に期末テストと、実施機会が少ない中においては、互見授業ができた方ではないかと分析している。後期11月には学校公開や研究授業もあり授業見学の機会を増やせるので、取り組み率をさらに向上させたい。
	③ 生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	A 6月のスポーツテストの結果では 86%	昨年度のC評価からA評価となった。体育の授業や部活動での体力向上の成果と考える。スポ科、総合学科の差も少なくなり、大きな男女差もなくなってきている。今後も女子生徒、総合学科の体力アップに授業等を通して継続して取り組んでいきたい。
	④ 一人一人の生徒に対してしっかりと進路指導を行い、確実な進路希望の実現を図る。	進路内定・決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	—	最終集計で判断する
学校関係者評価委員会の評価		・各先生方の授業に対する生徒の評価が良好なことに安心をした。コロナ禍の中ではあるが、臨時休業中及び学校再開後のICTの活用や授業研究の努力を評価したい。（生徒側の情報端末の整備への支援も） ・例年であれば、各校で職場体験が実施されるはずだが、今年は全く実施されなかった。感染リスクには配慮が必要ではあるが、工夫しながら様々な体験活動にチャレンジしてもらいたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・家庭における情報端末やWi-Fi環境の支援や職員のICTリテラシーの向上を、次の臨時休業に備えて一層充実させていきたい。 ・中高連絡協議会や中学校訪問時に、本校の進学状況や就職状況のプレゼンの仕方をもっと工夫・改善していく。（大学卒業後の状況、部活ごとの状況など）		

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 部活動の計画的な実施による効率的・効果的な生徒の技術向上と生徒会活動の活性化（全国大会での上位入賞、ボランティア活動の推進、情報発信）	① 県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングを行う。	全国大会に出場した部活動が A 8部以上である。 B 6部以上である。 C 5部である。 D 5部未満である。	—	今年度はコロナ感染症蔓延の為、全国高校総体などの全国大会が中止のため判定できず。
	② 部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 60%未満である。	C 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 74%	年間活動計画と休養日計画を適切にバランスし、実施に当たる予定であったが、新型コロナウイルスの影響で計画を変更せざるを得なかった。また大会等の中止もすべての部活動に及び生徒のモチベーションが大きく低下したことは否定できない。今後のケアに全力を尽くしたい。
	③ 生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 70%	生徒主体の活動となるように生徒へ課題を投げかけ、課題の解決に努力させるように活動を工夫してきた。生徒会執行部がアンケートを積極的に作成する姿などが、生徒の評価に結びついている。
	④ 様々なボランティア活動に参加する生徒を増やし、社会経験を豊かにし、他者と協働する意識を高める。	様々なボランティア活動に参加したと答える生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 77%	コロナ禍にもかかわらず、部活動単位で、あいさつ運動や学校周辺のごみ拾いなど積極的に参加している様子が見られる。社会体験活動の中で多くのことを学び成長してほしい。
	⑤ 学校通信（校内、地域）の発行やHP・学校メール配信により部活動や生徒会活動の様子などをきめ細かく発信する。	学校のHPや学校メールの発信に満足している保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート (保護者) 93%	昨年同時期の評価数値が89%で、本年度93%と満足度が若干上がっている。新型コロナウイルスの影響で、HPや学校配信メールで情報提供をする機会が増えた為だと考える。今後の状況には係らず、学校からの情報提供はさらに促進していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・インターハイ等の全国大会が中止となり、意欲の低下が学校生活全般に及ばないように、精神的なケアに配慮してもらいたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・行事等に関しては、感染リスクを理由に中止するだけでなく、やれる工夫を考えて前向きに対処する。 ・生徒の活躍の場を設けることで、意欲や達成感を感じる工夫を設けていく。		

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4 教職員の時間外勤務の削減による教育活動の充実。（効率的な業務の推進）	① 教職員のワークライフバランスの実現に向けて、校務の効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。	月 8 0 時間以上の時間外勤務のある職員の延べ人数が A 0 人である。 B (月数× 1 人) 以下である。 C (月数× 2 人) 以下である。 D C を上回る。	C 7 月までの毎月の時間外勤務記録により判定	昨年度の時間外勤務記録と比較すると 80 時間を超える延べ人数が 30 人から 6 人に減少した。コロナ禍の中での減少であるので単純な比較はできない。しかし学校再開後の 6・7 月のデータを比較しても、R 2 年度の時間外 80 時間越える人数は、減少しているので勤務の適正化が進んでいると言える。部活動の県外遠征などの制限が数値に影響しているものと分析している。
		(全教員) タイムマネジメントや業務の効率的な推進を意識した働き方をしていると答えた教職員の割合が A 8 0 % 以上である。 B 7 0 % 以上である。 C 6 0 % 以上である。 D 6 0 % 未満である。	A 7 月の教育活動に関するアンケート (教職員) 9 7 %	教職員の働き方改革への意識は、今年度も高いことが認められる。第 2 波、第 3 波におけるオンライン学習等の対応で業務の効率化への意識が低下しないように注意してみたい。
学校関係者評価委員会の評価		・臨時休業中のデータに基づく評価結果であるので、部活動再開後での再評価が不可欠である。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・職員の「働き方改革」の改善が中間評価では進んではいるが、あくまで臨時休業中の影響と捉え、再開後の反動に対処していく。		